

## はじめに

本県の鉄道は、お年寄りや学生など地域の方々の日常の足として欠くことのできない交通機関であるとともに、その大量輸送、定時性、高速性などの特性から、産業の活性化や観光振興など交流人口の拡大に寄与する重要な社会資本です。

令和4年度に開業30周年を迎えた山形新幹線においては、福島駅アプローチ線の新設工事が進められるとともに、令和6年3月16日からは新型車両E8系が導入され、県内のSuica利用駅が21駅拡大されるなど、鉄道の機能強化・利便性向上は着実に進んでいます。

令和6年4月には、山形県とJR東日本が連携して山形県春の観光キャンペーンが実施されるなど、本県と首都圏等とのさらなる交流拡大、地域活性化が期待される所です。

また、令和4年度に左沢線が全線開通100周年、令和5年度にフラワー長井線が全線開通100周年の大きな節目を迎え、各地で記念イベントが開催されたほか、令和6年7月には、羽越本線が全線開通100周年を迎えます。

国土全体の強靱化と活力の向上、また、東北地方の一体的・自律的發展を実現していくためには、日本海側の機能強化を図るとともに太平洋側とを結ぶ新幹線ネットワークの形成が不可欠であります。また、コロナ禍を契機としたテレワークや二地域居住、企業・生産拠点の多様化・分散化の動きを加速していくためにも、その基盤となる新幹線ネットワークの充実・強化の重要性がより一層高まっております。

全国の整備新幹線の整備が進む中、奥羽・羽越新幹線は未だ基本計画の段階にとどまっており、両新幹線の早期実現に向け、取組みを進めていく必要があります。

さらに、自然災害等による輸送障害が多発し、安全性や安定輸送の確保が喫緊の課題となっている福島～米沢間において、現在、山形県とJR東日本で検討を進めている山形新幹線米沢トンネル（仮称）は、奥羽新幹線の整備を前に進める足掛かりとなるとともに、山形新幹線の安定性や速達性の向上を通して、国土全体の強靱化にもつながる重要なプロジェクトでありますので、まずもって同トンネルの早期事業化を目指してまいります。また、地域のみならずとも連携しながら、県内全域にわたって鉄道沿線活性化を推進するため、令和4年度に本同盟会において、「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会」を立ち上げたところであり、様々な観点から鉄道の利用拡大や沿線活性化を図ることにより、同トンネルの早期実現につなげてまいりたいと考えております。

結びとなりますが、この小冊子の作成に当たり、ご協力をいただきましたJR東日本山形支店をはじめとする関係の皆様へ感謝の意を表するとともに、この小冊子により、鉄道輸送に対する理解が深まることをご期待申し上げます。

令和6年3月

山形県鉄道利用・整備強化促進期成同盟会